

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I. スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの知識を深め理解する学
- II. マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III. スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV. 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V. スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを愛する心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 大山崎町立大山崎中学校 】

1 実践テーマ	【I、Ⅲ、V】
2 実施対象者	全校生徒（1年生 男子76名 女子66名 計142名） （2年生 男子73名 女子56名 計129名） （3年生 男子71名 女子52名 計123名） 合計394名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	身近な本校卒業生から講演を聞き、努力することや、夢を持つことの大切さを学ぶことで、自分の将来について考え、失敗を恐れず、どんな苦境に立たされても、決して諦めない気持ちを持って粘り強く充実した生活を送ろうとする態度を育てる。
5 取組内容	(1) 福祉体験学習（第1学年）において、「福祉とは」等について学んだ。また、車椅子体験、アイマスク体験、手話体験等を通して障害や福祉について考えた。 (10~12月)  (2) 職場体験学習（第2学年）において、福祉施設で体験学習を行い、福祉の実際について学んだ。（11月）   (3) 本校卒業生のライトフライ級元日本王者・同級アジア王者のプロボクサー堀川謙一氏から、50戦もの試合を振り返るとともに、海外での武者修行中に目の当たりにしたり、感じ取ったりした貴重な体験について講演を聞き、感想文を書いた。（1月）  

6 主な成果	(1) 福祉体験学習や職場体験学習を通して、「福祉」とはどのようなことか、車椅子に乗ったり介助したりするときの苦労や工夫にはどのようなものがあるか、介護施設での仕事の内容にはどのようなものがあるかなどを知ることができ、思いやりの心や気遣いの気持ちを醸成できた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">手話を今までとても難しいものと思ってとらえていたけど、あいさつは手で礼をしているという感じで身振り手振りでも伝わるのが分かりました。〈生徒感想文より〉</div> (2) 堀川謙一氏の講演会では、失敗や負けから学ぶことはたくさんあること、どれだけ辛く、悲しく、恥ずかしい思いをしたとしても、自分がやれるだけの努力を精一杯して、決して諦めない気持ちを持って努力すれば、夢は叶えられることを学ぶことができた。また、命の尊さについても学ぶ機会となった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の弱いところを指摘されているようで、すぐかたくなになった。人生で壁にぶち当たることは、これから何度もあると思う。その時に今回堀川さんから聞いたことを糧にして頑張っていきたい。 私も失敗しないとちゃんと理解できなかつたりすることがあるけれど、それを「失敗しちゃった。」で終わらせずに、どうすれば次に繋がるか考えていきたい。〈生徒感想文より〉</div>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	(1) 福祉体験学習や職場体験学習で「福祉」に関して得られた知識や経験を多くの生徒が共有化できるように「まとめづくり」を行った。 (2) 講演会を聴くための事前学習では、資料とワークシートを作成してあらかじめ講師の方のプロフィールや競技の特性、本講演のねらいが分かるように準備した。講演会の本番では、講演の時間が超過してしまい、生徒からの質問を受け付けられなかったことが残念であった。 (3) 事後学習で「感想文」を書くことで、今回の講演で学んだことを生徒自身がまとめ、自分と比較して振り返ることで、話の内容を整理し、自らの課題を明確にすることができて良かった。 (4) 講師の方が、本校の卒業生であり、小さい頃からボクサーを目指していたわけではなく、高校を卒業してからボクシングをはじめ、何度も挫折を味わいながらもアスリートとして成長し続け、今もなお、日本、アジア、世界のチャンピオンを目指して努力を続けておられる姿をお話や映像で見せていただくことで、特別な才能がなくても決して諦めない強い気持ちと努力をすれば、夢や目標が叶えられるということを実感することができた。
8 主な課題等	講師の方の試合の関係で、日程の調整が大変であった。 今後は、本事業に関わる取組を行える関係学年や分掌、教科等において計画的に、また組織的に取り組むことができると良い。
9 来年度以降の実施予定	生徒にとって大変貴重な経験であり、親近感や繋がりをイメージすることができるような講師の方をお招きすることで、生徒のやる気や目標達成に向けた意欲を引き出す効果が大きく期待できるので、来年度以降もぜひ継続したい。